

なからぎの森

No.12

2022.8.7

発行元：京都府立植物園整備計画の見直しを求める会（通称：なからぎの森の会）〒606-0851 京都市左京区下鴨梅ノ木町 62-2

京都府が、北山エリア開発について 「地域住民へのお知らせ」を配布 しかし、大きな問題点が...



京都府のチラシでは「垣根をすべてとりはらい公園化する計画ではない」「バックヤードは...充実させます。植物園の面積を削ることはありません」など説明しています。しかし、2020年12月に府が発表した北山エリア整備基本計画のイメージ図（裏面参照）には、植物園に多くの出入口の矢印があり、北山通沿いや賀茂川沿いにも商業施設やアミューズメント施設を作り、バックヤードが削減されるかのように描か

れています。この計画が、様々な不安や危惧を生んでいます。今回の府のチラシは、開発の経費や影響などの危惧や不安には答えず、「ショッピングモールの建設」「園の半分を削る」など極端な例をあげ、そうは「なりませんよ」と言って、開発を進めようとしているとしか思えません。昨年秋の住民説明会での多数の反対意見にも答えていません。

学生の利用が基本であるならば、1万人収容の巨大アリーナは必要ないのでは？

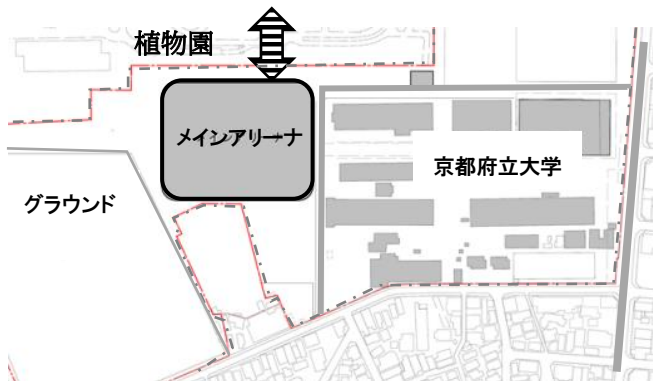
府は「アリーナ（共同体育館）については植物園内ではなく、府立大学内につくるもので学生の利用を基本に多目的での活用を想定」と説明しています。その説明であれば、2000人規模の学生の府立大学内に170億円もの税金を投入し1万人の巨大アリーナをつくる必

要はないはずです。学生の利用を基本にし、スポーツを楽しむための地域利用などは考慮されるべきとは考えますが、1万人が観戦するためのアリーナは必要ないと考えます。

植物園の出入り口を増やして、植物園は守られますか？

アリーナの植物園への影響は？

府は、「垣根は、すべては取り払うことはしない」と書いていますが、逆に考えれば一定は取り払うようです。特に園の南側に建設が想定されているアリーナとの関係で、出入口を増やせば、隣接するバラ園の環境が危ぶまれます。アリーナに呼び込む人流や照明、日照など植物に与える影響も懸念されます。現在の植物園には4つの門があり、それ以外は垣根でしっかりと守られています。私たちは、垣根で守られていることが、植物の存続のために大切だと考えています。



今年1月に京都府に提出された「共同体育館整備に係る検討資料」（コンサル会社 KPMG 作成）の図の複製。矢印は「イメージ図」にある矢印。

旧総合資料館跡地等の活用については、地域住民の意見も聞いてください

府の説明のなかで旧総合資料館跡地について、舞台芸術、視覚芸術の拠点の施設、エリア全体の魅力向上につながる付帯施設の整備を行うとしています。府の基本計画のイメージ図等では5階建ての商業ビル、住民説明会でもホテルが入ることも否定されていません。旧総合資料館跡地については、ホテルではなく、住民の意見や要望を踏まえ、植物園や府立大学などの役割、機能を生かすような施設の整備が必要と考えます。

2020年12月京都府「北山エリア整備基本計画」に描かれた「イメージ図」

「北山エリアの整備基本計画」は一度白紙に！

最近になって、有識者懇話会などが開かれ、地元自治会・各種団体等の役員への説明がされてきていますが、それだけでは不十分です。北山エリアの整備計画については、地域住民や学生・教職員の声を聴いて計画を抜本的に見直してください。そのためにも、まずは広く住民・府民の声を聴く説明会・タウンミーティングなどを開催してください。

京都府はこれまで、公表をしておきながら、「この図はあくまでイメージ」と言い続けてきました。でも、この図に表されたコンセプトを見直すとは一言も言っていない。

